

<授業研究1>構成を工夫しながらスピーチをしよう（現代の国語 話すこと・聞くこと）

1 研究の背景

「現代の国語」を受けもつことになった教員は「話すこと・聞くこと」領域をどのように指導・評価をすればよいか頭を悩ませただろう。現状では指導方法が体系的に確立されておらず、3観点の評価方法についても手探り状態と言えるからである。こうした中、適切な指導・評価をする上で重要となるのは、単元の目標に合った言語活動の設定だと考えられる。そこで、本研究では「自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫することができる」（A話すこと・聞くこと(1)のイ）ことを単元の目標とし、「スマートフォンを持ち始める中学生にメディア・リテラシーについて考えてもらうためのスピーチを行う」というパフォーマンス課題（言語活動）を設定した。そして、観点別学習状況の評価の三つの観点のうち「思考・判断・表現」については、単元の目標を踏まえて構成の検討を基にループリックを定め、スピーチ原稿を提出させることで評価することとした。「主体的に学習に取り組む態度」については、グループ内で行うスピーチの様子を評価することとした。この際、粘り強さの側面と学習の調整の側面を分けて評価を行った。その結果、評価のポイントが明確になり同科目を受けもつ教員とのすり合わせもスムーズに行うことができた。3観点を指導・評価する上で妥当性と信頼性をもちつつ、教員の「評価疲れ」を防ぐ効率的な評価方法について研究を進めた。

2 単元の目標

- (1) 文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解することができる。〔知識及び技能〕 (1)オ
- (2) 情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使うことができる。〔知識及び技能〕 (2)エ
- (3) 自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕 A(1)イ
- (4) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。「学びに向かう力、人間性等」

3 指導と評価の計画

科目名	現代の国語	学年 類型	1年	単位数	2単位	話すこと 聞くこと	○
単元名	確かな情報を伝えるために					書くこと	
教材	押井守「ひとまず、信じない」					読むこと	
単元の評価規準							
知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		

<p>・文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。(1)のオ)</p> <p>・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使っている。(2)のエ)</p>	<p>・「話すこと・聞くこと」において、自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。</p> <p>(A(1)のイ)</p>	<p>・構成を工夫しながらスピーチする活動を通して、自分の立場や考えを明確にし、自分の考えが的確に伝わるよう積極的に話そうとしたり、他者のスピーチから自分の考えを深めたりする中で自らの学習を調整しようとしている。</p>			
主たる言語活動					
メディア・リテラシーについて構成を工夫しながらスピーチする活動					
時間	授業のねらい・学習活動	重点項目			評価方法
		知	思	態	
1	「情報はつくられる」とはどのようなことか、理解し説明する。	○			記述の確認 (ロイロノートの提出箱)
	①3枚の写真(1.南米アマゾン熱帯雨林を写した衛星写真 2.火災の写真 3.息絶えた赤ちゃん猿を抱える親猿の写真)を見て「情報はつくられる」を通読する。				
	②シンキングツール「クラゲチャート」を使って、「情報はつくられる」とはどのようなことか説明するために、思考を整理する。				
	③「情報はつくられる」とはどのようなことか、100字～200字で説明する。その際、ペアで協力して説明文をつくり、二人でひとつの作品をロイロノート・スクール(株式会社 LoiLo, 以下「ロイロノート」と表記)に提出する。				
2 ・ 3	情報と適切につきあう方法について話し合う。	○			<ul style="list-style-type: none"> ・行動の点検 (グループでの話し合い活動) ・記述の確認 (ロイロノートの提出箱)
	④押井守「ひとまず、信じない」を通読する。				
	⑤「OneNote」に送った資料(授業用 PowerPoint のスライド)を使いながら本文の主旨を理解する。				
	⑥「情報と適切につきあう」方法を考える。その際、シンキングツール「ピラミッドチャート」を使って、スピーチの型(構成)を意識する。				
	⑦4人グループをつくり、「情報と適切につき合う方法」を話し合う。				
	⑧学びの手応えをロイロノートに提出する。				
4 ・ 5	メディア・リテラシーについて構成を工夫しながら、スピーチの原稿づくりをする。	◎			記述の分析 (ロイロノートの提出箱)
	⑨パフォーマンス課題(メディア・リテラシーについて構成を工夫したスピーチ原稿)の内容、評価基準を理解する。				
	⑩パフォーマンス課題をロイロノートに提出する。				
6	グループでスピーチを行い、改善点を考える。	○	◎		<ul style="list-style-type: none"> ・行動の分析 (グループでの話し合い活動) ・記述の分析 (ロイロノートの提出箱)
	⑪自分のスピーチ原稿を振り返る。				
	⑫原稿を基に4人グループでスピーチを行う。				
	⑬他者のスピーチから得た気づき、そこからの改善点をシンキングツール「キャンディシート」に記入し、ロイロノートに提出する。相互評価をFormsにて行い、特に「話し手の考えが伝わったかどうか」を評価する。				

④定期考査	◎	◎	定期考査
-------	---	---	------

※重点項目の欄について、指導に生かす評価には「○」を、記録に残す評価には「◎」を付す。

ルーブリック

	A	B	C
思考・判断・表現	メディア・リテラシーについて、構成を工夫しながら、新たに加えた資料を結論と対応させつつ話している。 ※新たに加えた資料とは自分の経験談ではなく、適切な引用をしながら提示される資料を指す。	メディア・リテラシーについて、構成を工夫しながら話している。	メディア・リテラシーについて、話している。
	レベル3	レベル2	レベル1
主体的に学習に取り組む態度	<u>学習の調整(態度 α)</u> スピーチ(の原稿)について、構成や引用の仕方、内容などを複数取り上げて、具体的に改善しようとしている。	スピーチ(の原稿)について、構成や引用の仕方、内容などを一つ取り上げて、具体的に改善しようとしている。	スピーチ(の原稿)について、構成や引用の仕方、内容などを改善しようと努めている。
	<u>粘り強さ(態度 β)</u> 相手を説得できるよう、一人一人の目を見て、はっきり話そうとしている。	相手に伝えようと、はっきり話そうとしている。	相手に伝えようと話そうとしている。

4 学習活動の実際

単元の始めに、パフォーマンス課題として「スマートフォンを持ち始める中学生にメディア・リテラシーについて考えてもらうためのスピーチを行う」と明示した。アウトプットを目標とすることで、生徒は単元全体において能動的に取り組んでいた。第1次において「情報はつくられる」ことを積極的に理解しようとした。第2・3次においてはスピーチの型(構成)を意識しながら話す練習をした。この時間では、シンキングツール「ピラミッドチャート」を用いて思考の整理をした。生徒の中には、授業時間ではスピーチの型(構成)をつくることができず、うまく話すことができなかった者がいた。そのような生徒には「この時間で構成を意識したスピーチができなくてもよい。単元の終わりで行うパフォーマンス課題までに、構成を工夫したスピーチができるようにしよう」と声をかけた。

スピーチ原稿の作成について、ICTを活用して行ったところ、ほとんどの生徒が、スピーチの型(構成)を工夫した原稿をつくることができた。また、インターネットでさまざまな情報を検索して、調べた情報を原稿作成に生かしていた。しかし、原稿を作成する上で、引用文だと分かるように書く、自分の文章が「主」で、引用は「従」で書く、ウェブページからの引用はURLや記事の題名などを明記する、といった「適切な引用」ができていない生徒が多いことが分かった。「適切な引用」は、「思考・判断・表現」の観点のA評価に深く関わる。そこでパフォーマンス課題に取り組んでいる時間に、「適切な引用」についてたびたび指導した。今回は単元の目標としていなかったが、〔知識及び技能〕の(2)情報の扱い方に関する事項オ「引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使うこと」についても指導の必要性を感じた。

第6次にて、グループでスピーチを行い、その後、自分のスピーチ原稿を振り返り改善点を考えた。

改善点を書き、提出させたワークシートに「引用した内容を言う前に、『総務省の公式サイトから引用しました。』と入れればよかった」という記述があった。教員による一斉指導では「適切な引用」法の理解ができなかった生徒が、他者の意見を参考にして学習の調整をしようとする姿が見られた。

5 評価の実際

この単元で取り扱う「話すこと・聞くこと」の指導事項は(1)のイで、構成の検討が核となる。人前でスピーチをする際に、話の構成や展開を考えるため原稿を書いた経験があるはずである。そこで、本研究では単元の目標に即して「思考・判断・表現」の観点から、スピーチ原稿をもって評価することとした。1学年239名を評価したところ、「十分満足できる」状況(A)と「努力を要する」状況(C)がそれぞれ1割弱で、「おおむね満足できる」状況(B)が8割強となった。

「主体的に学習に取り組む態度」は第6次の活動で評価した。スピーチ原稿を基に4人組をつかってスピーチを行い、その様子から粘り強さの側面を評価した。40人クラスの場合、10グループでできることになるが、10人が一斉に話している様子を公平に評価するのは難しいので、10グループを半分に分け、5グループずつスピーチを行った。実際に5人のスピーチの様子を分析して評価することは可能であった。グループでのスピーチを終えて、他者から得た気付きと自らの改善点をワークシートに記入しロイロノートに提出させた。その後、提出された文章を読み、学習の調整の側面について評価した。最終的には、二つの側面を総合して評価をつけた。1学年239名を評価し、「十分満足できる」状況(A)が5割強で「おおむね満足できる」状況(B)が4割強、「努力を要する」状況(C)が1割弱だった。

【資料】主体的に学習に取り組む態度 二つの側面の総合評価

[態度α] 自らの学習を調整しようとする側面	レベル3	B	B	A
	レベル2	B	B	B
	レベル1	C	B	B
		レベル1	レベル2	レベル3
		[態度β] 粘り強い取組を行おうとする側面		

6 研究の成果と課題

(1) 「思考力・判断力・表現力等」について（A基準の改善）

パフォーマンス課題はロイロノートで提出をさせた。提出状況が把握しやすく作品の比較が容易にできた。また、評価に悩む課題はMicrosoft Teamsのチャット機能を使ってデータを共有し、教員間で随時すり合わせを行った。そうすることで「評価のズレ」を最小限に止め、公平性を保つことができた。

今回は「構成を工夫しながら、新たに加えた資料を結論と対応させつつ話している」ことをA基準とした。来年度以降の改善案は、傍線部の部分を「聞き手の関心を引きつつ」とする。「聞き手の関

心を引く」方法の一つとして適切な引用がある。適切な引用にだけ焦点を当てるのではなく、指導事項（A話すこと・聞くこと(1)イ）をより深めたものに変更する。

(2) 「聞くこと」の留意について

単元の最後に、スピーチの相互評価を行う機会を設ける。特に、「話し手の考えが伝わったかどうか」を重視して評価するように指導を行う。相互評価はMicrosoft Formsを用いた。従来の紙で行う評価と違い、収集や整理を即時に行うことができた。

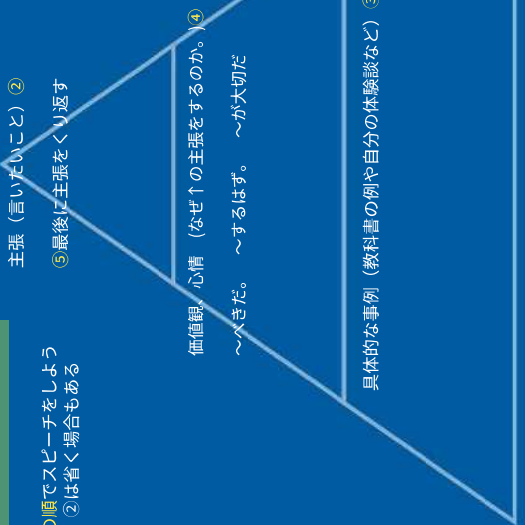
(3) 「主体的に学習に取り組む態度」について

突出して優れているものが「十分満足できる」状況（A）となるようにループリックを検討する。来年度以降の改善案として、学習の調整の側面は「スピーチ（の原稿）について、構成や引用の仕方、内容など三つの面を取り上げて、具体的に改善しようとしている」と変更する。粘り強さの側面は「自分の考えが的確に伝わるよう、一人一人の目を見ながら、身ぶり手ぶりを交えつつ、はっきり話そうとしている」と変更する。

「主体的に学習に取り組む態度」の二つの側面を分けることで、評価のポイントが見やすくなり、評価で悩むことが少なくなった。「粘り強さ」の側面はグループワークの態度で評価した。このため、授業中に評価を終えることができ、授業外で評価に費やす時間を削減できた。「学習の調整」の側面を評価するワークシートは、パフォーマンス課題と同じようにロイロノートで提出させた。課題の提出をさせる際にICTを活用することで、評価を効率的に行うことができ、時間が短縮されると強く実感している。

【テーマ】①
情報と適切に付き合う方法

①～⑤の順でスピーチをしよう
ただし、②は省く場合もある



皆さんはインターネットを上手く活用できていますか？インターネットは、便利なこともありますが、一方で間違った情報をインターネット上に流したり、嘘の情報を本当の情報かのように拡散したりという恐ろしいことも起こっています。

今、ロシアがウクライナに侵攻し、戦争が起こっています。戦争の映像をインターネット上に投稿する人が多く見られます。特に映像として切り取られたものは、戦争という現実のごく一部で、現地にいる人がインターネット上に何かを発信していたとしても、それはその人が得た情報でしかありません。また、その情報を発信している人が兵士なのか民間人なのかにより、情報の信頼度や中身は大きく変わってきます。

警視庁のホームページでは、情報の拡散について、「うわさや情報は、直接会って広まるものでしたが、インターネットの普及によってより簡単に広まるようになりました。」と書かれています。また、疑わしい情報を判断するヒントについては、「ウソの情報は、強調表現や不安をあおる表現で信じ込ませ、急いで拡散させようすること」と「リンク (情報源のURL) や根拠が記載されていない場合」に注意をすることだと書かれています。

情報がすぐに広まる今の時代は、自分がインターネットで得た情報が事実か確かめることは大切です。しかし、全ての情報を確かめる時間をとるのは難しいため、疑わしい情報を確かめることが必要となります。私達は、情報について理解し、インターネットと上手に共存していく必要があるのです。

スピーチ原稿【提出】

みなさんはフェイクニュースという言葉の意味は知っていますか。フェイクニュースとは、特にメディアで拡散される情報の中で真実とは異なる情報、簡単に言うと嘘の情報を言います。これからこのフェイクニュースについて話していきたいと思います。

2020年の2月ごろ、世界では今よりもコロナウイルスが話題になっていた時期でした。SNSでトレイレットペーパーが品薄になるという嘘の情報やわちフェイクニュースが回りまわりました。トレイレットペーパーは中国で主に生産されており、輸入量が少なくなってしまうとデマ情報がネットに広がり、これを見た消費者がこの情報は真実だと思

い込んでしまい、なくなることへの不安で皆が買い込みました。
このような問題に対してメディア研究者の平和博さんは「一番必要なのは、やはり『自分の頭で考える』そこが第一になるんじゃないかなと考えています。」と情報を受け取る側が気を付けることを指摘しており、また「まず事実を伝え、次にデマの内容を伝えて、さらに事実で念押しをする。」と情報を発信する側にも問題があったと指摘しています。

SNSなどの情報はすべて真実ということはありません。なにか調べものをするときには一つの記事を見るだけでなく複数の記事を見たらうえで自分で判断する事が大切だと考えます。また、情報を発信する側も受け取る側いかに正確に情報を出せるかという方法や情報収集の仕方など改めて考える必要があると考えます。

フェイクニュースは今後も増え続けることは間違いないと思います。その中でいかに私たちが正確な情報を手に入れることができる力を持っているかが大切になってくるのです。

フェイクニュースについて発表します。
突然ですがみなさんは、メディア・リテラシーが身につけていますか？メディア・リテラシーを身につけるには英語力を鍛える、情報の発信元を確認する、似た情報と比較するなどがあります。

ここでフェイクニュースについて話します。
フェイクニュースとは、SNSメディアやソーシャルメディアなどで、事実と異なる情報を報道する、あるいはそのような報道を行うメディアそのものことです。虚偽であるとわかった上で架空報道や、推測を事実のように報道するなど、故意のものについては捏造報道とも言います。
少し私の経験談をばなします。ネット通販で買いたい物を見た時に違う商品が届いたり、写真と違う物が届いたことがあります。そこで口コミやレビューを見てみると私と同じことを思っている人がいました。私はこの経験から、写真にとらわれず口コミやレビューを事前に確認して、信頼できる物を買おうと考えてきました。

ネット通販以外にも事実と異なる情報がたくさんあります。2019年に、南米アマゾンの熱帯雨林で大規模な火災がおきました。その際に広がる火災を写したとされる写真がインターネット上で拡散されました。しかしその写真の中には、数十年前に撮影したものや異なる場所で発生した火災を写したものがあ

